

# 日本性科学会 ニュース

第17巻第4号

平成10年(1998年)12月

発行人: 野末 源一 印刷所: 絢文社

## 平成11年度 研修会および学会の予告

### 第28回 性治療研修会

日 時 平成11年4月25日(日)  
場 所 山之内製薬株式会社2階ホール(東京・JR新日本橋駅 徒歩5分)  
テ ー マ 性と薬物

### 第19回 日本性科学学会

日 時 平成11年10月9日(土)  
場 所 三重県立看護大学  
メインテーマ 性科学のコラボレーション —— 多職種の協働 ——  
学 会 長 川野 雅資(三重県立看護大学精神看護学教授)  
学会事務局 〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地の1  
精神看護学 TEL・FAX 059-233-5620  
大学案内に関しましてはホームページアドレスを御参照ください。  
ホームページアドレス <http://www.men.ac.jp>

### 第14回 WAS(世界性科学会)案内

期 日 1999年8月23日(月)~27日(金)  
場 所 香港; Hong Cong Convention and Exhibition Center (HKCEC)  
会 長 Prof. Emil M. L. Ng  
早期登録期日 1999年4月30日  
演題締切 1999年2月1日

お問い合わせは日本性科学連合事務局(03-3288-5200)まで

Vol. 17

№  
4

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

## 第4回日本性科学会総会議事録

平成10年10月23日(金) 午後1時15分

沖縄郵便貯金会館

出席者21名 委任状164名

金子幹事が司会をつとめる。

開会挨拶 野末理事長

司会者より、「議長の選出をいかにすべきか」を議場に諮り、「司会者一任」の声を受けて、石津会長が推薦される。石津議長着席し、出席者数、委任状数報告の後、議事に入る。

### 議 事

#### 1. 平成10年度事業報告

長池総務担当理事より資料に基づき報告があり、資格認定制度に関しては阿部委員長より選考の内容とカウンセラー・セラピストの教育、指導に当るスーパーバイザーの委嘱についての説明、他団体との交流に関しては大川理事より補足説明が行なわれた。

#### 2. 平成10年度決算の承認について

山崎財務担当理事より資料に基づき説明が行なわれた。

##### ・監査報告

飯沼監事欠席のため、議長が監査報告書を読み上げた。

議長より、1、2を一括して諮り、挙手をもって承認可決された。

#### 3. 平成11年度事業計画案の承認について

長池総務担当理事より資料に基づき説明が行なわれた。

#### 4. 平成11年度予算案の承認について

山崎財務担当理事より資料に基づき説明があり、また理事会の審議に基づき、今後学会誌・学会ニュース関係費用は新しく支出項目を設けることが報告された。

議長より、3、4を一括して諮り、挙手をもって承認可決された。

#### 5. その他

長池総務担当理事より、平成11年に実施する予定の理事選挙に関し、「理事選挙管理規程第3項」を当分の間、“地域別ブロックを廃止して、全国1ブロック”に修正し、実情にそくした運営を行ないたい旨が提案された。

議長より、本提案を諮り、拍手をもって異議なく承認された。

第19回日本性科学会川野会長挨拶

川野次期学会長より、平成11年10月9日(土)、三重県津市・三重県立看護大学において開催する予定である旨の挨拶があった。

閉会挨拶 長田副理事長

石津議長の閉会宣言にて午後1時45分終了。

## 平成10年度事業報告

(平成9年10月1日～平成10年9月30日)

### 1. 第3回総会

日 時：平成9年10月4日

場 所：栃木県・自治医科大学研修センター

出席者：36名 委任状：138名

### 2. 会員状況(平成10年9月30日現在)

正会員 276名 賛助会員 3法人

### 3. 会の運営

(1) 理事会 2回 (2) 幹事会 9回 (3) 認定制度委員会・幹事会合同会議 1回

### 4. 資格認定制度実施状況

#### ① 資格認定者

・セックス・カウンセラー 9名 ・セックス・セラピスト 17名

#### ② 資格認定申請者

・セックス・カウンセラー 9名 ・セックス・セラピスト 5名 11月末までに資格認定者決定の予定。

#### ③ スーパーバイザー委嘱 24名

### 5. 会の活動

(1) 研修会1回開催 (2) 症例研究会6回開催 (3) 学会誌2回発行 (4) 学会ニュース4回発行

### 6. 団体交流

#### (1) 日本性科学連合(JFS)

・加盟団体

・日本性科学会、(社)日本家族計画協会、(財)日本性教育協会、日本思春期学会、日本性機能学会、日本性感染症学会

・第2回性科学セミナー開催

平成10年5月23日 東京都・国立公衆衛生院 講堂 基本テーマ「性と人権」

#### (2) 世界性科学会(WAS)

特記すべきものなし。

#### (3) アジア性科学会(AFS)

・2000年(平成12年)日本で開催される第6回大会準備委員会への参加決定。

## 平成 10 年度決算

(平成 9 年 10 月 1 日～平成 10 年 9 月 30 日)

## 平成 11 年度事業計画

(平成 10 年 10 月 1 日～平成 11 年 9 月 30 日)

1. 学術集会の開催
2. 研修会, 研究会の開催
3. 学会誌, 学会ニュースの発行
4. 資格認定制度の推進
5. 倫理規定の制定
6. 地域活動の推進
7. 関連団体との交流
  - (1) 日本性科学連合 (J F S)
  - (2) 世界性科学会 (W A S)  
第 14 回大会
    - ・会 期 : 1999 年 8 月 23 日～27 日
    - ・場 所 : 香 港
    - ・会 長 : Dr. Emil L. Ng (呉敏倫) Vice President Department of Psychiatry, University of Hong Kong
  - (3) アジア性科学会 (A F S)

## 平成 11 年度予算



## 認定更新に関する規定

1. 日本性科学会は、認定者のレベル保持のため、次の方式により認定更新制を施行する。
2. 日本性科学会の認定を受けた者（認定者）は、認定を受けてから5年を経たときに、認定更新の審査を受けなければ、引き続いて認定者を呼称することはできない。
3. 認定更新は、資格認定制度委員会が行う。
4. 認定更新は、毎年1回、ニューズレターに公告して行う。この公告には、その年度に更新審査を受けるべき該当者、ならびに認定更新に必要な提出書類や申請期日を掲載する。
5. 認定更新を希望する者は、公告に従い、所定の書類を添付して認定更新の申請をしなければならない。
6. 認定更新は、認定を受けてから5年間に本学会が指定した教育的、学術的企画に参加し、その所定研修単位を取得したものについて行う。
  - 1) 総単位数は、40単位以上とする。
  - 2) 上記1)のうち、20単位以上は日本性科学会の企画したものへの参加により取得したものとする。また上記1)の単位数は少なくとも3年以上にわたって取得したものとする。
7. 認定更新に必要な研修単位取得の対象となる企画とその参加単位数
  - 1) 研修単位取得の対象となる企画とその参加単位数
    - ① 日本性科学会が行うもの
      - (イ) 学術集会  
日本性科学会の学術集会への参加は10単位とする。演者は3単位、共同演者は1単位加算する。この参加単位は、1日以上の場合、1日の出席でも1回と計算する。
      - (ロ) 研修会  
日本性科学会の研修会への参加は10単位とする。演者は3単位加算する。この参加単位は、1日以上の場合、1日の出席でも1回と計算する。
      - (ハ) 症例研究会  
日本性科学会の症例研究会への参加は3単位とする。演者は3単位加算する。
    - ② 日本性科学会以外が行うもの  
日本性科学会が指定した下記学会の学術集会または研究会への参加は5単位とする。演者は2単位加算する。  
WAS (World Association of Sexology), AFS (Asian Federation of Sexology), 日本性機能学会, 日本性教育協会, 日本家族計画協会, 日本思春期学会, 日本性感感染症学会, 日本心身医学会, AASECT, SSSS その他のセクソロジー関連の学術集会, 研究会及び講演会
    - ③ 論文掲載  
日本性科学会発行の「日本性科学会雑誌」については、筆頭者は10単位とする。本学会認定制度委員会が認めたセクソロジー関係の論文については、筆頭者は5単位、共署名はいずれも2単位とする。
  - 2) 認定更新に必要な取得単位の申請は、自己申告制とし、それを証明するに足る書類を添付すること。ただし、まとめの用紙は本学会が指定する書式によるものとする。
  - 3) 学会集会及び研修会での演者としての単位の算定には、それを証明するプログラム又は論文の写しを添付すること。
  - 4) 論文及び著書は、セクソロジーに関わる学術的なものに限る。申請の際にその別刷又は写しを添付すること。
8. 認定を受けてから認定を更新するまでの所定の期間（認定毎に指示する）に取得単位数が所定の研修単位数に満たない時は、認定更新の保留を申し出て、所定単位数を満した時に再申請することができる。保留期間は2年までとし、保留期間中は認定者の称号を呼称することはできない。

ただし、特別な事情（長期の病気療養や研究のための外国留学など）の場合は、その事情を記した書類を添付して、保留期間の延長を申請することができる。
9. ここに掲載された認定更新制に関する事項の改訂は認定制度委員会の議を経て理事会の承認を要する。
10. 平成10年以降に認定を受けたものについては5年ごとに更新を行う。
11. 平成9年12月1日までに認定を受けたものについては、平成10年12月より単位登録を開始し、平成15年8月1日までに所定の単位を修得したものについては第1回目の認定更新を行う。第2回目からの更新は5年毎に行う。
12. 認定更新の事務は、日本性科学会事務局において行う。

この規定は平成10年12月1日より施行する。

## 資格認定制度委員会報告

委員長 阿部輝夫

今年で2度目となった資格認定への申請者数は初年度より下まわり、セックス・カウンセラー9名、セックス・セラピスト5名であった。

資格認定者(8名) 亀谷 謙・山中京子・林田昇平・山根藤策・中條泰行・幾嶋栄三郎・伊藤 弘・岡本 丈

セックス・セラピスト(5名) 針間克己・山中京子・林田昇平・森 泰美・岡本 丈

審査にあたって感じたことは、ケース・レポートについてである。カウンセリング経過がよく読みとれ、考察もしっかりなされているものが多い中で、レポートの形式をとっていないもの、内容に問題を感じるものなどがあり一部不合格者や保留措置をとらざるを得なかった申請者があった。過渡的措置は来年夏の申請で終了となり、以後はより厳密な規定の中で審査が行われることになるので、来年度は当学会誌の「症例報告」などを参考に、多数申請されることを期待する。

## 第5回アジア性科学会(ACS)報告

国立千葉病院 大川玲子

5th ACS(会長; ヨンセイ大学教授 Prof. Choi)は11月25日～27日、ソウルは韓国経済新聞社で行われた。真新しい高層ビル社屋での盛大な学会であった。参加者は約300人。日本からは18名、日本性科学会(JSSS)からの出席は松本清一、野末源一夫妻、長池博子ら9名であった。一般公開された展示の一つは、古今東西の性美術の見事なコレクションであった。いま一つは勃起治療薬や器具、早漏治療薬、ピル、コンドームなどのsexual productsの展示である。多くの一般参加(ほとんど男性)があり、関心の高さを伺わせた。

今回は主催が泌尿器科教室であることや、バイアグラへの関心が世界的に高まっている時期でもあり、男性の性機能障害に関する演題が多く、JSSSの一員としては興味深いものであった。バイアグラのファイザー製薬、SS-creamのChil Jedang社が大スポンサーであった。SS-creamは早漏治療に有効とされる生薬である。これら薬物療法についての研究発表が次々となされたが、性機能障害の器質、機能的治療法の発達に伴い、心理的、非医学的なアプローチがいっそう重要であるとする発表も少なくなかった。性指向、性同一性の問題やHIV関連は演題数の上ではやや淋しい感があったが、発表に対する討論はどれも実に活発であった。

WAS会長、Prof. Colemanの講演はsexual health of new millennium(次の千年期)と題して行われた。20世紀における性的な革命的事項として、女性の解放、避妊法と抗生物質、生殖革命、ゲイ・レズビアン解放、そしてHIV、STDの出現、インターネットを含むメディアの台頭などを挙げた。また次世紀の課題として、より一層人間関係を高める必要があること、などを示唆した。

隣国、韓国への日本人の思いは複雑で、世代の相違もある。参加者に、外国経験の多い割に韓国は初めて、という人が多かったのもそれを物語っている。しかし短い滞在中に、敵意よりは親愛感、暖かいもてなしをより多く感じ、また人々の、特に女性のたくましさをかいま見るチャンスがいくつかあった。

次回2000年の6th ACSは日本(神戸)で開催される。これにむけてAFSの新役員には、松本、波多野、宮原に加えて大川が推薦された。アジア学会はWASに比べて役員数、学術発表数とも圧倒的に男性優位である。この面でも2000年に向けて努力する必要があると感じたことであった。



## 国際勃起機能スコア (IIEF 5)

「国際勃起機能スコアの日本語訳が出たので、とりあえずスコアのみ御紹介します。詳しくは次号の学会誌をご覧ください。」

最近6ヶ月で

|                                        |                 |                           |                                |                    |                                   |                       |
|----------------------------------------|-----------------|---------------------------|--------------------------------|--------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. 勃起を維持する自信の程度はどれくらいありましたか。           |                 | 非常に低い                     | 低い                             | 普通                 | 高い                                | 非常に高い                 |
|                                        |                 | 1                         | 2                              | 3                  | 4                                 | 5                     |
| 2. 性的刺激による勃起の場合、何回挿入可能な勃起の硬さになりましたか。   | 性的刺激一度もなし<br>0  | 全くなし<br>又は<br>ほとんどなし<br>1 | たまに<br>(半分よりかなり<br>下回る回数)<br>2 | 時々<br>(半分くらい)<br>3 | おおかた毎回<br>(半分よりかなり<br>上回る回数)<br>4 | 毎回<br>又は<br>ほぼ毎回<br>5 |
| 3. 性交中、挿入後何回勃起を維持することが出来ましたか。          | 性交の試み一度もなし<br>0 | 全くなし<br>又は<br>ほとんどなし<br>1 | たまに<br>(半分よりかなり<br>下回る回数)<br>2 | 時々<br>(半分くらい)<br>3 | おおかた毎回<br>(半分よりかなり<br>上回る回数)<br>4 | 毎回<br>又は<br>ほぼ毎回<br>5 |
| 4. 性交中に、性交を終了するまで勃起を維持するのはどれくらい困難でしたか。 | 性交の試み一度もなし<br>0 | ほとんど困難<br>1               | かなり困難<br>2                     | 困難<br>3            | やや困難<br>4                         | 困難でない<br>5            |
| 5. 性交を試みた時に、何回満足に性交ができましたか。            | 性交の試み一度もなし<br>0 | 全くなし<br>又は<br>ほとんどなし<br>1 | たまに<br>(半分よりかなり<br>下回る回数)<br>2 | 時々<br>(半分くらい)<br>3 | おおかた毎回<br>(半分よりかなり<br>上回る回数)<br>4 | 毎回<br>又は<br>ほぼ毎回<br>5 |

合計点数 \_\_\_\_\_

## 症例研究会のお知らせ

症例研究会の1999年の前半の予定が以下のように決まりました。

1月21日(木) 早乙女智子先生担当 「若者から成人までの避妊行動」  
3月18日(木) 堀口 雅子先生担当 5月21日(金) 針間 克己先生担当 7月15日(木)

場 所：日本性科学会事務局 TEL 03 (3475) 1780  
時 間：午後6時30分～8時30分

## GID (Gender Identity Disorder 性同一性障害研究会) 開催ならびに演題募集のお知らせ

性同一性障害は近年大きな注目を集め、その関連分野は形成外科だけではなく、精神神経科、泌尿器科、婦人科、内分、泌科等医学の様々な分野に及んでいます。今回、性同一性障害に関わる研究者が集まる会合を日本で始めて開催する予定です。

日 時：1999年3月21日(日)  
場 所：東京ウィメンズプラザ 地下1階ホール 東京都渋谷区神宮前5-53-67  
(渋谷駅下車徒歩12分、表参道下車徒歩7分)

演題発表ご希望の方は、演題名、名前、所属、住所、電話、FAX、E-mail講演内容要旨(200字以内)を下記事務局にお送り下さい(1月15日締め切り)。申し込みはE-mailが望ましいのですが、データーをフロッピーにテキスト形式で保存して、プリントアウトしたものと合わせてお送り下さっても結構です。機種はNEC、DOS、Macを問いませんが、ワープロはDOS出力として下さい。また、それらが無理なら、演題申し込み用紙を作成してお送り下さい(形式自由)。研究会参加希望で、今後研究会連絡を希望する方も下記事務局までご一報下さい。

第1回GID研究会会長 原 科 孝 雄

事 務 局：埼玉医科大学総合医療センター形成外科 井 上 嘉 治  
〒350-8550 川越市鴨田辻道町1981  
TEL 0492-28-3639 FAX 0492-25-8699 E-mail yyii@saitama-med.ac.jp